

目標 さまざまなテーマの評論文を読むことを通して、論理的、批判的な思考力と判断力、表現力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも社会人として活躍していく高校生が、現実の社会に必要な国語の知識や技能を他者との関わりにおいて適切に使うことができる。	論理的に考える力に加えて批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を身に付けることで自分自身の思考を意識的に吟味する力をつける。	言葉の価値を認識し、読書を通して現代社会に関わる問題に幅広く関心を持ち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。
わかる 習得	他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解している。	文章や資料における情報に対し論理的、批判的に考える力が重視されることを理解する。	言葉の価値を認識し読書に親しみ自己を向上させることで、ものの見方や考え方が豊かになることを理解する。
風越高校の目指す学習者像	〔信念をもつ人〕 〔振り返りができる人〕	〔コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人〕 〔思いやりのある人〕	〔探究する人〕 〔広い視野を持つことができる人〕
評価方法	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『精選論理国語』東京書籍
- ・『新国語総合ガイド』京都書房
- ・『論理国語 学習課題ノート』東京書籍

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を取り入れたりと、内容を批判的に検討し個人の考えを表現できるようにグループワークやレポート作成をする。
- ・レポートや小論文の書き方を基礎から学び、授業内で書く活動を多く取り入れる。主に導入やまとめで、途中の間でも適宜プリント等を活用して書く活動を設ける。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	「いつもそばには本があった」國分巧一郎 「ミロのヴィーナス」清岡卓行 「相手依存の自己規定」鈴木孝夫
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	18	「分人とは何か」平野啓一郎 「メディアの変容」土井隆義 「リスク」と「リスク社会」神里達博
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	18	「環境」とは何か」上柿崇英 「である」と「すること」丸山真男
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	17	「山月記」中島敦 「やさしい日本語」庵功雄 「地図の想像力」若林幹夫
	1月		
	2月		

科目 古典探究

授業時数 2 単位  
履修学年 2 学年

目標 時代を超えた「知」として蓄積されてきた古典を通し、国際化や情報化の急速な進展を伴う社会でよりよく生きるため、教養としての古典の価値を再認識し、自己の在り方生き方を見つめ直す契機とする。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活全般において必要な知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	伝統的な言語文化に対する理解を深め、生涯にわたる社会生活において必要な知識や技能について理解できる。	古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方の現代との類似点、相違点を理解する。	古典の中心とした文化としての言語、実際の生活で使用する中で形成されてきた文化的な言語生活、言語芸術や芸能などの価値を理解し尊重する。
わかる 習得	日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能があるということを認識する。	古典の学習を通して古典の豊かな世界に触れ、先人が何を感じて何を考えたのか、いかに生きたのかということを知る。	生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させること、古典を通して社会人として考え方やものの見方を豊かにすることへの意識ができる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人]	[思考できる人] [振り返りができる人]	[挑戦する人] [広い視野を持つことができる人]
評価方法	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『精選古典探究 古文編』東京書籍
- ・教科書『精選古典探究 漢文編』東京書籍
- ・『精選古典探究 学習課題ノート』東京書籍
- ・『体系古典文法学習ノート』数研出版
- ・『体系漢文学習ノート』数研出版
- ・『体系古典文法』数研出版
- ・『体系漢文』数研出版
- ・『理解を深める核心古文単語』尚文出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・「古文編」「漢文編」それぞれの主要なジャンルの代表作を読む中で、当時の資料を見たり、自身の理解が深まっているか振り返る時間を設けたりするなど、古典に表れたものの見方や考え方を理解するよう順序立てた授業展開にする。
- ・教材を通し、自分の考えを広げたり、想像力を豊かにするような発問を用意し、書く活動を継続的に取り入れる。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	〈古文〉説話「成方といふ笛吹き」(十訓抄) 〈古文〉歌物語「初冠」(伊勢物語) 〈漢文〉「先従隗始」(十八史略)
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	18	〈漢文〉鴻門之会(列子) 〈古文〉随筆「すさまじきもの」(枕草紙) 〈古文〉軍記「忠度の都落ち」(平家物語) 〈漢文〉中国の詩「宿建徳江」(孟浩然)
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	18	〈古文〉日記「物語」(更級日記) 〈古文〉作り物語「若紫」(源氏物語) 〈漢文〉小説「小時了了」(世説新語)
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	17	〈漢文〉思想「無用の用」(老子) 〈古文〉歴史物語「道真の左遷」(大鏡) 〈古文〉近世小説「小判は寝姿の夢」(世間胸算用)
	1月		
	2月		

<b>科目</b>	<b>文学探究</b>	<b>授業時数</b>	<b>2 単位</b>
		<b>履修学年</b>	<b>2 学年</b>
<b>目標</b>	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を現代文学や古典文学を通して身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めたりできる。	現代の文学作品や古典作品を通して深く共感したり想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	現代文学や古典文学を通して言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、日ごろから読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会と関わることができる。
できる 活用Ⅰ	日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能を理解する。	文学的な文章を読むことを通して、言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練し、自らの言葉に対する完成を磨く。	文学作品を通して自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりできる。
わかる 習得	我が国の言語文化に対する理解の重要性を認識する。	文学作品を通し、多様な相手との相互理解を進めていく必要性について理解する。	文学作品からさまざまなことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにするという言葉の価値を認識する。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人]	[思考できる人] [振り返りができる人]	[挑戦する人] [広い視野を持つことができる人]
評価方法	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期考査 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

中島国彦監修『近現代文学名作選』明治書院 『精選言語文化』東京書籍
--------------------------------------

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

文学作品についてはこれまでの現代文(小説・詩歌)に相当する授業を行う。古典作品については、文法事項も重視しながら、古文、漢文の作品の読解を行う。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	桜に関する作品を読み比べる～『万葉集』から現代まで～ 谷崎潤一郎「刺青」 有島武郎「小さき者へ」 宮沢賢治「よだかの星」 横光利一「蠅」
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	18	井伏鱒二「山椒魚」 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 太宰治「黄金風景」 恋の歌を読み比べる～『万葉集』から現代まで～
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	18	川端康成「小切」 安部公房「赤い繭」 幸田文「おきみやげ」 山口仲美「昔の犬は何と鳴く」
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	17	宮本輝「途中下車」 川上弘美「神様」 小川洋子「口笛の上手な白雪姫」 白居易「香炉峰下、新ト山居草堂初成、偶題東壁」
	1月		
	2月		

科 目	地理総合	授業時数	2 単位
		履修学年	2 学年
目 標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて考察・構想したりする力があり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を持っている。
	できる 活用Ⅰ	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、諸資料から地理に関する様々な情報を調べまとめることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力があり、考察・構想したことを説明することができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われているとともに、我が国や世界の諸地域の多様な生活文化について多面的・多角的な考察や深い理解ができていく。
	わかる 習得	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて様々な情報を調べることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力がある。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が養われている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人]	[探究する人] [バランスのとれた人]	
評価方法	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート 授業に取り組む姿勢や意欲	

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「地理総合」二宮書店</li> <li>・地図「詳解現代地図 最新版」二宮書店</li> <li>・「新地理の研究」啓隆社</li> </ul>
---

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>「地理総合」は、中学校社会科の学習の成果の上に立って、高等学校生徒の発達段階を考慮して設置された科目であり、特に中学校社会科地理的分野との関係が深い。このことから、既習内容を踏まえた適切な対応が必要である。また、地理的分野とともに、同じく社会的事象を学習の対象とする歴史的分野及び公民的分野についても、ここでの学習を前提として「地理総合」の内容は構成されており、必要に応じてそれらの内容を振り返り、関連を図りながら、指導内容の工夫を図る必要がある。</p>
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	<b>【第1章】地図とGISの活用</b> 1, 球面上の世界 2, 世界からみた日本の位置と領域 3, 国内や国家間の結びつき 4, 暮らしのなかの地図とGIS
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	<b>【第2章】地理的環境の特色</b> 1, 地形と生活文化 2, 気候と生活文化 3, 産業と生活文化 4, 宗教・言語と生活文化
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	<b>【第3章】世界各地の生活文化</b> 1, 経済発展と生活文化の変化～東アジア～ 2, 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国～ 3, 水の恵みと生活文化～南アジア～ 4, イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏～
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	5, 多様な気候と生活文化～アフリカ～ 6, 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国～ 7, 寒冷な気候と生活文化～ロシア～ 8, グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ～ 9, 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ～ 10, 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア～
	1月		



科 目	世界史探究	授業時数	3 単位
		履修学年	2 学年
目 標	社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適正かつ効果的に調べまとめる技術を身につけられるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目する。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	世界の歴史の大枠と展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解することができる。	世界の歴史の大枠と展開に関わる史実から、それらを総合化し、推論して史像を形成できるような能力を養う。また、それらを活用して多面的、多角的に考察し、考えたことを表現できる力を育成する。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民として自覚的な態度を養う。
わかる 習得	諸事象の本質をその歴史的な形成展開の過程を実証的な考察によって捉える歴史的な見方や考え方を身につけ、歴史的な思考力の育成を図り、国家・社会を形成する資質と能力を養う。	歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする能力を養う。	我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
風越高校の目指す学習者像	[広い視野をもつことができる人] [知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート 学習に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「詳説世界史」 山川出版社</li> <li>・「アカデミア世界史」 浜島書店</li> <li>・「新世界史研究ノート応用編」 啓隆社</li> <li>・「新よくでる一問一答世界史」 山川出版社</li> </ul>
---

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>古代から現代までの通史を学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、歴史的な事象の世界の諸地域がどう形成され、変化してきたのか、現代との繋がりという大きな問を掲げながら、諸地域や時代を具体的に展開し背景や因果関係が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し歴史を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。</p> <p>知識、思考力、表現力、主体性を図る課題レポートを課す。</p>
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	27	I 諸地域の歴史的特異の形成 ①文明の成立と古代文明の特質 ・文明の誕生 ・南アジアの古代文明 ・南北アメリカ文明 ・古代オリエント文明とその周辺 ・中国の古代文明
	5月 6月		②中央ユーラシアと東アジア世界 ・中央ユーラシと東アジア世界 ・中国の動乱と変容 ・秦、漢帝国 ・東アジア文化圏の形成
前期期末	7月	27	③南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・仏教の成立と南アジアの統一国家 ・東南アジア世界の形成と展開 ・インド古典文化とヒンドゥー教の定着
	8月 9月		④西アジアと地中海周辺の国家形成 ・イラン諸国家の興亡とイラン文明 ・ローマと地中海支配 ・ギリシア人の都市国家 ・キリスト教の成立と発展 ⑤イスラーム教の成立と発展 ・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成
後期中間	10月	26	II 諸地域の交流・再編 ⑥イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・イスラーム教の諸地域への伝播 ・西アジアの動向
	11月		⑦ヨーロッパ世界の変容と展開 ・西ヨーロッパの封建社会とその展開 ・西ヨーロッパ世界の変容 ・東ヨーロッパ世界の展開 ・西ヨーロッパの中世文化 ⑧東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・アジア諸地域の自律かと宋 ・モンゴルの大帝国
後期期末	12月	25	⑨大交易・大交流の時代 ・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容
	1月 2月		⑩アジアの諸帝国の繁栄 ・オスマン帝国とサファヴィー朝 ・清代の中国と隣接諸地域 ・ムガル帝国の興隆 ⑪近世ヨーロッパ世界の動向 ・ルネサンス ・主権国家体制の成立 ・北欧、東欧の動向 ・宗教改革 ・オランダ、イギリス、フランスの台頭 ・科学革命と啓蒙思想

<b>科 目</b>	<b>日本史探究</b>	<b>授業時数</b>	<b>3 単位</b>
		<b>履修学年</b>	<b>2 学年</b>
<b>目 標</b>	日本の歴史の展開を諸資料に基づき歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目する。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養う。
評価規準「育ちのプロセス」 できる 活用Ⅰ	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解できる。	様々な史実から、それを総合化し、推論して史像を形成できるような能力を養う。形成された史像や概念などを活用して多面的・多角的に考察し、考えたことを表現できる力を育成する。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚的な態度を養う。
わかる 習得	諸事象の本質をその歴史的な形成展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図り、国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。	歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする能力を養う。	我が国の歴史や祖先に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚や意識などを深める。
風越高校の目指す学習者像	[広い視野を持つことができる人] [知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート 授業に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「詳説日本史」山川出版社</li> <li>「詳説日本史スタンダードテスト」 山川出版社</li> <li>・「詳説日本史授業用ノート」山川出版社</li> <li>・「詳説日本史図録」山川出版社</li> </ul>
--

■どのように学ぶか [授業の方法／学び方]

<p>原始・古代から現代までの通史を学ぶための授業を行う。最初に思考力・判断力・表現力を働かせるための基礎知識を獲得させ、歴史的なできごとの背景や因果関係が理解できるようにする。そのために教科書や図録に掲載されている史資料を精選した形で提示し、時代の特色をつかむ学習上の視点となる問いかけを重視する。その際、歴史叙述の基礎となる文字史料のほか、遺物や遺跡などの重要性を生徒に自覚させたい。授業の終わりでは「まとめ」の問いを設けて学習内容を振り返り、考察できるようにする。また、教科書の本文を読む際の着眼点なるように、加えて様々な角度から歴史を捉えられるよう教科書の随所に設けられている問を積極的に活用する。主体的に取り組む態度を評価するために自由研究を前提とした課題レポートを課す。その際に研究内容だけでなく課題テーマを選択した理由、研究の結果わかったこと(振り返り)なども重要な評価の観点とする。</p>
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	27	1 原始・古代の日本と東アジア 本文化のあけぼの 島最古の文化 の社会と文化 社会と文化 立と古墳文化 国 の成立 進展 ③律令国家の形成 代国家の形成 文化、白鳳文化
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	27	・律令制度 ・奈良時代の政治 平文化 の国家・社会の変容 制再編期の政治と社会 成立と支配体制の転換 2 中世の日本と世界 園公領制の成立と院政 家・社会の展開 成立と朝廷 人々
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	26	・蒙古襲来と幕府の衰退 倉文化 の国家・社会の変容 動乱 治と外交 開と応仁の乱 ・戦国大名の分国経営
	11月		
後期 期末	12月	25	3 近世の日本と世界 ①東アジアの世界の変容と天下統一 豊政権 一の完成 期の文化 成立と展開 ・貿易の統制と対外関係 世社会のしくみ
	1月		

科目 **数学B**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **2 学年**

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現・処理したりする技能が身に付いている。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察した上で問題解決の過程を振り返って考察する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用Ⅰ	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現することができる。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察した上で数学的に適格に表現することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進 数学B」啓林館
- ・問題集「Grasp 数学Ⅱ+B+ベクトル」啓林館 ※数学Ⅱでも使用
- ・提出課題用教材「問題集ノートCue 標準～応用編」啓林館 ※単元ごとの分冊
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・A・Ⅱとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識・技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究」に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月		数学Ⅱ
	7月 8月 9月		
後期 中間	10月 11月		↓
	10月 5 11月 20		1章 数列 1節 等差数列・等比数列 (1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列) 2節 いろいろな数列 (1 和の記号 $\Sigma$ 2 累乗の和と $\Sigma$ の性質 3 階差数列 4数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和)
後期 期末	12月 1 2月	50	3節 漸化式と数学的帰納法 (1 漸化式 2 数学的帰納法) 2章 統計的な推測 1節 確率分布 (1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値 3 確率変数の分散・標準偏差 4 確率変数の和と期待値 5 独立な事象と独立な確率変数 6 二項分布) 2節 正規分布 (1 連続的な確率変数 2 正規分布) 3節 区間推定と仮説検定 (1 母集団と標本 2 推定 3 仮説検定 4 身のまわりの問題への活用)

科目 数学Ⅱ

授業時数 4 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で、問題解決の過程を振り返って統合的・発展的に考察する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用Ⅰ	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化することができる。	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で数学的に適格に表現することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進 数学Ⅱ」啓林館
- ・問題集「Grasp 数学Ⅱ+B+ベクトル」啓林館 ※数学Bでも使用
- ・提出課題用教材「問題集ノートCue 標準～応用編」啓林館 ※単元ごとの分冊
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・Aとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識・技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究」に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	38	1章 式と証明・高次方程式 1節 多項式の乗法・除法と分数式 (1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 多項式の除法 4 分数式の計算) 2節 式と証明 (1 恒等式 2 等式の証明 3 不等式の証明) 3節 高次方程式 (1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 2次方程式の解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式)
	5月 6月		
前期 期末	7月	38	2章 図形と方程式 1節 点と直線 (1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係) 2節 円と直線 (1 円の方程式 2 円と直線) 3節 軌跡と領域 (1 軌跡 2 不等式の表す領域) 3章 三角関数 1節 一般角の三角関数 (1 一般角 2 弧度法 3 一般角の三角関数)
	8月 9月		
後期 中間	10月	27	3章 三角関数 1節 三角関数 (4 三角関数の相互関係 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式) 2節 三角関数の加法定理 (1 三角関数の加法定理 2 2倍角・半角の公式 3 三角関数の合成) 4章 指数関数と対数関数 1節 指数と指数関数 (1 指数の拡張 2 指数関数) 2節 対数と対数関数 (1 対数 2 対数関数とそのグラフ 3 常用対数)
	11月		
後期 期末	12月 1月 2月	37	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 (1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線の方程式) 2節 導関数の応用 (1 関数の増減 2 方程式・不等式への応用) 3節 積分 (1 不定積分 2 定積分 3 面積と定積分)



科目 **数学B**

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現・処理したりする技能が身に付いている。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察した上で問題解決の過程を振り返って考察する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用Ⅰ	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈し表現することができる。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的に適格に表現することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	離散的な変化の規則性、確率分布や標本分布の性質に着目し、事象を数学的・批判的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進 数学B」啓林館
- ・問題集「Grasp 数学Ⅱ+B+ベクトル」啓林館 ※数学Ⅱでも使用
- ・提出課題用教材「問題集ノートCue 標準～応用編」啓林館 ※単元ごとの分冊
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・A・Ⅱとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識・技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究」に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月	18	1章 数列 1節 等差数列・等比数列 (1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列)
	7月 8月 9月	18	2節 いろいろな数列 (1 和の記号 $\Sigma$ 2 累乗の和と $\Sigma$ の性質 3 階差数列 4数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和) 3節 漸化式と数学的帰納法 (1 漸化式 2 数学的帰納法) 2章 統計的な推測 1節 確率分布 (1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値 3 確率変数の分散・標準偏差 4 確率変数の和と期待値 5 独立な事象と独立な確率変数 6 二項分布)
後期 中間	10月 11月	16	2節 正規分布 (1 連続的な確率変数 2 正規分布) 3節 区間推定と仮説検定 (1 母集団と標本 2 推定 3 仮説検定 4 身のまわりの問題への活用)
	12月 1月 2月	18	3章 数学と社会生活 1節 数学と社会生活 (1 関数によるデータの近似 2 大きな飼育場を作ろう マンホールのふたと定幅図形 4 暗号)

科目 数学Ⅱ

授業時数 3 単位

履修学年 2 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で、問題解決の過程を振り返って統合的・発展的に考察する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
できる 活用Ⅰ	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化することができる。	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察した上で数学的に適格に表現することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いており、問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。
わかる 習得	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数の範囲や式の性質、座標平面上の図形について構成要素間の関係、関数関係や関数の局所的な変化について着目し、事象を論理的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能) 授業内テスト	定期考査(記述) 授業内テスト	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み


■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「深進 数学Ⅱ」啓林館
- ・問題集「Grasp 数学Ⅱ+B+ベクトル」啓林館 ※数学Bでも使用
- ・提出課題用教材「問題集ノートCue 標準～応用編」啓林館 ※単元ごとの分冊
- ・参考書「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B」数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学Ⅰ・Aとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識・技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・各単元の「探究」に取り組むことで学習したことをさらに深く探究し、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	40	1章 式と証明・高次方程式 1節 多項式の乗法・除法と分数式 (1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 多項式の除法 4 分数式の計算) 2節 式と証明 (1 恒等式 2 等式の証明 3 不等式の証明) 3節 高次方程式 (1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 2次方程式の解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式)
	5月		2章 図形と方程式 1節 点と直線 (1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係)
前期 期末	7月	40	2節 円と直線 (1 円の方程式 2 円と直線) 3節 軌跡と領域 (1 軌跡 2 不等式の表す領域)
	9月		3章 三角関数 1節 一般角の三角関数 (1 一般角 2 弧度法 3 一般角の三角関数 4 三角関数の相互関係 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式) 2節 三角関数の加法定理 (1 三角関数の加法定理 2 2倍角・半角の公式 3 三角関数の合成)
後期 中間	10月	25	4章 指数関数と対数関数 1節 指数と指数関数 (1 指数の拡張 2 指数関数) 2節 対数と対数関数 (1 対数 2 対数関数とそのグラフ 3 常用対数)
	11月		5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 (1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線の方程式) 2節 導関数の応用 (1 関数の増減 2 方程式・不等式への応用) 3節 積分 (1 不定積分 2 定積分 3 面積と定積分)
後期 期末	12月		<p style="text-align: center;">数学B</p> 
1月			

## 科目 物理基礎

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

## ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	物体の運動と様々なエネルギーについての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

## ■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理基礎」啓林館
- ・「セミナー 物理基礎＋物理 新課程版」第一学習社

## ■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。  
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	(1) 物体の運動とエネルギー (ア) 運動の表し方 ア 物理量の測定と扱い方 イ 運動の表し方 ウ 直線運動の加速度
	5月 6月		(イ) 様々な力とその働き ア 様々な力 イ 力のつり合い
前期 期末	7月	16	ウ 運動の法則 エ 物体の落下運動
	8月 9月		(ウ) 力学的エネルギー ア 運動エネルギーと位置エネルギー イ 力学的エネルギーの保存
後期 中間	10月	16	(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 (ア) 波 ア 波の性質 イ 音と振動
	11月		(イ) 熱 ア 熱と温度 イ 熱の利用
後期 期末	12月	22	(ウ) 電気 ア 物質と電気抵抗 イ 電気の利用
	1月 2月		(エ) エネルギーとその利用 ア エネルギーとその利用 (オ) 物理学が拓ひらく世界 ア 物理学が拓ひらく世界

科目 化学

授業時数 3 単位

履修学年 2 学年

目標 化学的な事象・現象についての観察, 実験を行うことなどを通して, 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究する力や態度を育成する。

### ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また, 科学的に探究するための観察, 実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察, 実験などを計画実行し, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述し, 考えを論理的に表現することができる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり, 様々な事象の因果関係を考えたり, 考えを他者と伝え合うことで理解を深め, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察, 実験などを計画実行し, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述できる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり, 自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	化学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察, 実験などを行い, 科学的に探究することができる。また, その結果を正しく記述できる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

### ■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 化学」啓林館
- ・「セミナー 化学基礎+化学 新課程版」第一学習社

### ■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力, 判断力, 表現力等」とを相互に関連させながら, 科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。  
学習内容の特質に応じて, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈, 法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに, 報告書などを作成したり, 発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4 5 6 月	27	第1部 物質の状態 第1章 固体の構造 (1) 化学結合と結晶 (2) 結晶の構造 (3) アモルファス(非晶質) 第2章 物質の状態変化 (1) 状態変化 (2) 気液平衡と蒸気圧 第3章 気体の性質 (1) 気体の体積の変化 (2) 気体の状態方程式
	7 8 9 月	27	第4章 溶液の性質 (1) 溶解と溶解度 (2) 希薄溶液の性質 (3) コロイド 第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー (1) 反応熱とエンタルピー (2) ヘスの法則 (3) 化学反応と光
後期 中間	10 11 月	26	第2章 化学反応と電気エネルギー (1) 電池 (2) 電気分解 第3章 反応速度 (1) 反応の速さ (2) 化学反応と触媒 第4章 化学平衡 (1) 化学平衡とその移動 (2) 電離平衡
	12 1 2 月	25	第3部 無機物質 [1]周期表と元素の分類 [2]非金属元素 [3]典型金属元素 [4]遷移金属



## 科目 化学基礎

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

## ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常生活や社会と関連した、物質とその変化についての基礎的な知識を駆使して、複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けている。	複雑な事象について観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	物質とその変化について主体的に関わり、身のまわりの複雑な事象の原理を考えたり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、その知識を活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、論理的に考察することができる。	物質とその変化について主体的に関わり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物質とその変化について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	【知識のある人】 【広い視野を持つことができる人】	【思考できる人】 【挑戦する人】	【探究する人】 【振り返りができる人】
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(考察記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

## ■何で学ぶか【教材】

・教科書「化学基礎」啓林館  
・問題集「センサー化学基礎 3rd Edition」啓林館

## ■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。  
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりします。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月	16	(1) 化学と人間生活 (ア) 化学と物質 ア 化学の特徴 イ 物質の分離・精製 ウ 単体と化合物 エ 熱運動と物質の三態 (2) 物質の構成 (ア) 物質の構成粒子 ア 原子の構造 イ 電子配置と周期表
	7月 8月 9月	16	(イ) 物質と化学結合 ア イオンとイオン結合 イ 分子と共有結合 ウ 金属と金属結合
	10月 11月	16	(3) 物質の変化とその利用 (ア) 物質と化学反応式 ア 物質 イ 化学反応式
後期 期末	12月 1月 2月	22	(イ) 化学反応 ア 酸・塩基と中和 イ 酸化と還元 (ウ) 化学が拓く世界 ア 化学が拓く世界

科目 **生物**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **2 学年**

目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	問題解決の為の観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成、発表を通して科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする態度が養われている。
できる 活用Ⅰ	生物や生物現象についての基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題解決の為の観察や実験等を計画、実行でき、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく分析、記述することができる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようすることができる。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
わかる 習得	生物や生物現象についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な事が行える。	観察、実験などを通して科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
風越高校の目指す学習者像	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識のある人</li> <li>広い視野を持つことができる人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考できる人</li> <li>振り返りができる人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究する人</li> <li>思いやりのある人</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実験レポート(基本知識・技能)</li> <li>課題確認テスト(小テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実験レポート(記述)</li> <li>課題確認テスト(小テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に臨む姿勢や意欲</li> <li>実験レポート(態度・記述)</li> <li>パフォーマンス評価</li> </ul>

■何で学ぶか [教材]

- 教科書：『生物』 / 数研出版
- 準拠ノート：『リードLightノート 生物』 新課程版 / 数研出版
- 問題集：『セミナー 生物』 新課程版 / 第一学習社
- 図説：スクエア最新図説生物 新課程 / 第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・教科書、図説、準拠ノートを活用して生物に関する基礎的な知識を体系的に学び、問題集を利用してその知識の定着を図る。
- ・科学的に探究する姿勢を養うために、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの方法を習得する。
- ・授業やレポートの作成・発表を通して生物や生物現象についての理解を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養っていく。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4 月 5 6 月	15	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化
	7 月 5 9 月	20	第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質
後期 中間	10 月 5 11 月	20	第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成
	12 月 5 2 月	15	第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術

科 目	地学基礎	授業時数	2 単位
		履修学年	2 学年
目 標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		

### ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	日常生活や社会と関連した、地球や地球を取り巻く環境についての基礎的な知識を駆使して、複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	複雑な事象について観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、身のまわりの複雑な事象の原理を考えたり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
	できる 活用Ⅰ	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、その知識を活用することができる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、論理的に考察することができる。	地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、自らの考えを他者と伝えあうことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
	わかる 習得	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]	
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テストなど) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テストなど) 実験レポート(考察記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)	

### ■何で学ぶか [教材]

高等学校地学基礎(数研出版) 新課程フォトサイエンス 地学図録(数研出版) 新課程リードα 地学基礎(数研出版)
--

### ■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。</p> <p>「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら、資料を活用するとともに、観察、実験などを行い、報告書を作成させたり発表を行う機会を設けたりする。また、その特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得させるようにする。その際、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用を図る。</p>
---

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	15	<b>第1編 活動する地球</b> <b>第1章 地球の構造</b> 1.地球の形と大きさ：地球の形と大きさについて理解する。 2.地球の構造：地球内部の層構造とその状態について理解する。 <b>第2章 地球と生命の進化</b> 1.プレートの運動 2.プレートの運動の仕方：プレートの分布と運動、およびプレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について理解する。 <b>第3章 地震</b> 1.地震：地震の発生のしくみについて理解する。 2.地震の分布 3.地震災害：地震災害について理解する。 <b>第4章 火山</b> 1.火山活動 2.火成岩 3.火山がもたらす恵みと災害 :火山活動と火成岩の形成のしくみについて理解する。火山災害について理解する。
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	20	<b>第2編 移り変わる地球</b> <b>第1章 地層の形成</b> 1.堆積作用と堆積岩 2.地層の形成 地層からわかること：地層に基づいて地球の歴史を知ることができる理由を理解する。 地層の形成:流水のはたらきによって地層や堆積岩が形成されるしくみについて理解する。 <b>第2章 古生物の変遷と地球環境</b> 1.化石と地質時代の区分 2.古生物の変遷 地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法を理解する。 先カンブリア時代：地球の誕生から生命の出現にいたる地球の歴史について理解する。 顕生代：地球環境の変化と生物の活動の相互関係および古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて理解する。
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	20	<b>第3編 大気と海洋</b> <b>第1章 大気の熱収支</b> 1.大気の構造：大気圏の層構造について理解する。 水と気象：雲の発生について、大気中の水蒸気のふるまいと関連づけて理解する。 2.地球全体の熱収支:地球のエネルギー収支：地球全体の熱収支について理解する。 <b>第2章 大気と海水の運動</b> 1.大気の大循環：緯度によるエネルギー収支の違いを理解する。大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。 2.海水の運動：海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。 3.日本の天気と気象災害
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	15	<b>第4編 地球の環境</b> <b>第1章 気候の自然変動</b> 1.気候の自然変動 日本の天気に影響を与える偏西風の位置や季節風のしくみについて理解する。 冬から春の天気。夏から秋の天気:日本で見られる天気について理解する。 2.人間活動による環境変化:人間生活と地球環境の変化の関わりについて理解する。 3.日本の自然環境：人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。 <b>第5編 太陽系と宇宙</b> <b>第1章 太陽系と太陽</b> 太陽系の誕生：太陽系の誕生と惑星の成因について理解する。太陽系の各天体の違いについて考える。 <b>第2章 宇宙の誕生</b> 宇宙の誕生：宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生について理解する。
	1月		

科目 物理

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

### ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	物理学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

### ■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理」啓林館
- ・「セミナー 物理基礎＋物理 新課程版」第一学習社

### ■どのように学ぶか [授業の方法／学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。  
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月		
	7月 8月 9月		
後期 中間	10月 11月	35	(1) 様々な運動 (ア) 平面内の運動と剛体のつり合い ア 曲線運動の速度と加速度   イ 放物運動   ウ 剛体のつり合い  (イ) 運動量 ア 運動量と力積   イ 運動量の保存   ウ 衝突と力学的エネルギー  (ウ) 円運動と単振動 ア 円運動   イ 単振動   ウ 万有引力   エ 気体分子の運動
	12月 1月 2月	35	(2) 波 (ア) 波の伝わり方 ア 波の伝わり方とその表し方   イ 音   ウ 光  (3) 電気と磁気 (ア) 電気と電流 ア 電荷と電界   イ 電界と電位   ウ 電気容量   エ 電気回路



## 科目 物理基礎(前半)

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

## ■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	物体の運動と様々なエネルギーについて基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	物体の運動と様々なエネルギーについての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔振り返りができる人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

## ■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理基礎」啓林館
- ・「セミナー 物理基礎＋物理 新課程版」第一学習社

## ■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。  
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	30	(1) 物体の運動とエネルギー (ア) 運動の表し方 ア 物理量の測定と扱い方 イ 運動の表し方 ウ 直線運動の加速度 (イ) 様々な力とその働き ア 様々な力 イ 力のつり合い ウ 運動の法則 エ 物体の落下運動
	5月		
	6月		
前期期末	7月	30	(ウ) 力学的エネルギー ア 運動エネルギーと位置エネルギー イ 力学的エネルギーの保存 (2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 (ア) 波 ア 波の性質 イ 音と振動 (イ) 熱 ア 熱と温度 イ 熱の利用
	8月		
	9月		
後期中間	10月	10	(ウ) 電気 ア 物質と電気抵抗 イ 電気の利用 (エ) エネルギーとその利用 ア エネルギーとその利用 (オ) 物理学が拓ひらく世界 ア 物理学が拓ひらく世界
	11月		
	12月		
後期期末	1月		
	2月		
	3月		

科目 **保健**

授業時数

1 単位

履修学年

2 学年

目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	個人及び社会生活における健康・安全について基礎的な知識を駆使して様々な状況に応じて活用できる。また、自他の健康の保持増進のための必要なことを合理的、計画的に実践することができる。	健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に様々な方法で適確に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとし、状況に応じて適確に実践しようとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を十分に身につけている。
できる 活用Ⅰ	個人及び社会生活における健康・安全について基礎的なことを理解し、活用できる。また、自他の健康の保持増進のために必要なことを実践することができる。	健康について自他や社会の課題を一人だけでなく他者と共に把握することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて様々な方法で他者に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりのための方策を様々な視点から目指そうとしており、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。
わかる 習得	個人及び社会生活における健康・安全についての基本を理解し、実践できる。	健康について自他や社会の課題を自ら発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人]	[探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人]
評価方法	定期考査 保健ノート・学習カード	定期考査 保健ノート・学習カード 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 保健ノート・学習カード・レポート等への取り組みや記述

■何で学ぶか [教材]

大修館書店 現代高等保健体育・同ノート

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

健康に関する知識と理解を深め、生涯にわたって健康の保持増進を実現できる資質・能力の育成を目指す。ノートや学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、保健の授業における取り組みを総合的に評価する。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	9	<b>【生涯を通じる健康】</b> (ア) 生涯の各段階における健康
	5月		
	6月		
前期期末	7月	9	<b>【生涯を通じる健康】</b> (イ) 労働と健康  <b>【健康を支える環境づくり】</b> (ア) 環境と健康
	8月		
	9月		
後期中間	10月	9	<b>【健康を支える環境づくり】</b> (イ) 食品と健康 (ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (エ) 様々な保健活動や社会的対策
	11月		
	12月		
後期期末	1月	8	<b>【健康を支える環境づくり】</b> (オ) 健康に関する環境づくりと社会参加  <b>【安全な社会生活】</b> (ア) 安全な社会づくり
	2月		
	3月		

科目 **体育**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **2 学年**

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能をあらゆる状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて適確に説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者ととも合意形成しながら発見することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたこと様々な方法で適確に他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がすべて身につけており、健康・安全を確保して、状況に応じて生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分に身につけている。
できる 活用Ⅰ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能を特定の状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけて説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを様々な方法で他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がほぼ身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
わかる 習得	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能や、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がいくつか身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人]	[探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人]
評価方法	ゲーム等における実技レベル 学習カードやレポートの記述内容	学習カードやレポートの記述内容 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 学習カードやレポートへの取り組みや記述

■何で学ぶか [教材]

--

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

運動・スポーツに対する知識・技能の向上に加えて、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の向上も図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる資質・能力の育成を目指す。よって、学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、体育の授業における取り組みを総合的に評価する。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

	時数	学習内容
前期中間 4月 5月 6月	6	A 体づくり運動
	24	E 球技
前期期末 7月 8月 9月	15	B 器械運動 D 水泳 G ダンス
	4	C 陸上競技
	6	H 体育理論
後期中間 10月 11月	25	E 球技
	25	E 球技
後期末 12月 1月 2月	25	E 球技

科目 論理・表現II

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用II	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとして、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
できる 活用I	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとして、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
わかる 習得	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとして、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕
評価方法	定期考査 整理テスト	定期考査 整理テスト	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「EARTHRISE English Logic and Expression II Standard」数研出版
- ・「EARTHRISE 英語総合演習」数研出版
- ・「大学入試UPGRADE英文法・語法問題」数研出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。
- ・教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現(プレゼンテーション)したり、英語でやり取り(ディスカッション・ディベート)をすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学や論理表現Iで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。





■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Part1 Lesson1 How interesting Japanese Culture is! Lesson2 Wonderful places to visit in Japan Lesson3 Precious water for all
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	Lesson4 What has happened recently? Lesson5 I'm into music and movies! Lesson6 Where do you usually buy clothes? Lesson7 What kind of books do you like best?
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	Lesson8 Inventions that changed the way we live Part2 Lesson1 Can you come to our Party? Lesson2 I'm sure you can make it! Lesson3 How about trying this food?
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	Lesson4 Tips for Staying Healthy Lesson5 I'm taking part in some volunteer activities tomorrow Lesson6 Where would you like to live in the future? Lesson7 Which candidate is the right person?
	1月		
	2月		

科目 英語コミュニケーションII

授業時数 4 単位  
履修学年 2 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用II	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとする態度が見受けられる。
できる 活用I	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとする態度が見受けられる。
わかる 習得	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期考査 整理テスト	定期考査、整理テスト エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「BLUE MARBLE English Communication II」数研出版
- ・「BLUE MARBLE English Communication II ナビゲーションノート」数研出版
- ・リスニング教材
- ・サイドリーダー

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

(1) 英語コミュニケーションIでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。

(2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元のより深い理解であったり、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	38	Lesson1 Leadership in Modern Times Lesson2 The Diversity of Traditional Houses
	5月		
前期 期末	6月	38	(Lesson3 Improving Society with Avatar Robots) Lesson4 Approaches to Food Waste Lesson5 Animals as Indispensable Partners Lesson6 An Irish Poet on a Mission
	7月		
後期 中間	8月	27	Lesson7 Be Free from Gender Bias Lesson8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees
	9月		
後期 期末	10月	37	Lesson9 Tackling Global Warming Lesson10 Keys to Finding Happiness
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **総合英語ⅡC（国際教養科）**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **2 学年**

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
わかる 習得	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔振り返りができる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期考査 整理テスト	定期考査、整理テスト エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価（プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述）

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「BLUE MARBLE English Communication II」数研出版
- ・「BLUE MARBLE English Communication II ナビゲーションノート」数研出版
- ・リスニング教材
- ・サイドリーダー

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

(1) 英語コミュニケーションIでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。

(2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元のより深い理解であったり、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	27	Lesson1 Leadership in Modern Times Lesson2 The Diversity of Traditional Houses
	5月		
前期期末	6月	27	(Lesson3 Improving Society with Avatar Robots) Lesson4 Approaches to Food Waste Lesson5 Animals as Indispensable Partners Lesson6 An Irish Poet on a Mission
	7月		
後期中間	8月	26	Lesson7 Be Free from Gender Bias Lesson8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees
	9月		
後期期末	10月	25	Lesson9 Tackling Global Warming Lesson10 Keys to Finding Happiness
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		



科目 総合英語ⅡL（国際教養科）

授業時数 2単位  
履修学年 2学年

目標 中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
わかる 習得	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕
評価方法	定期考査 整理テスト	定期考査 整理テスト	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書「EARTHRISE English Logic and Expression II Advanced」数研出版
- ・「EARTHRISE 英語総合演習」数研出版
- ・「大学入試UPGRADE英文法・語法問題」数研出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。
- ・教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現(プレゼンテーション)したり、英語でやり取り(ディスカッション・ディベート)をすることもあります。自分の考えを表現するためには、高校で習うことは、もちろん中学校で習ってきた語彙や文法が必要になります。そのため、中学や論理表現Iで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Part1 Lesson1 Have you ever experienced any cultural differences? Lesson2 Where do you usually buy things? Lesson3 International events and cultural exchanges
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	Lesson4 How have you been lately? Lesson5 How do you watch movies and things? Part2 Lesson1 Making life better Lesson2 Good eating Habits
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	Lesson3 Visiting a new place Lesson4 Where would you like to live in the future? Lesson5 Which candidate is the right person? Part3 Lesson1 Advertising a language school
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	Lesson2 Inventions and discoveries Lesson3 How people use their smartphones Lesson4 Our accommodation in Okinawa Lesson5 Getting ready for high school exams
	1月		
	2月		

科 目	スペイン語	授業時数	2 単位
		履修学年	2 学年
目 標	日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する 読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、日常生活に必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。
	できる 活用Ⅰ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、一定の支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。
	わかる 習得	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	
評価方法	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	

■何で学ぶか [教材]

ゼロからはじめる書き込み式スペイン語Book (成美堂)
------------------------------

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになるという姿勢で取り組むことが大切です。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期	4月	5	基本ルール① アルファベット、綴り字記号、読まない文字
	5月	7	基本ルール② アクセント、男性形、女性形、主語に応じて変化する動詞
	6月	8	基本ルール③ 単数と複数
	7月	5	母音の発音 強母音と弱母音、二重母音・三重母音
	8月	5	子音の発音① b, v, c, s, ch, d, f, g, h, j, k, l,
	9月	5	子音の発音② ll, m
	10月	5	基本表現① n, p, q, r, rr ,t, w, x, y, z
	11月	5	基本表現② あいさつ、初対面あいさつ、別れの挨拶
	12月	5	日常表現① お礼、謝罪、ご機嫌伺い、受け答え
後期	1月	10	日常表現① 「～をお願いします」「～です」「～にいます/あります」
	2月	5	日常表現② 「～を持っています」「～を食べます」「～ではありません」
	3月	5	日常表現③ 「～はどこですか」「何/誰/どちら/いくら/どのように」

科目 中国語

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する  
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、日常生活に必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。
できる 活用Ⅰ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、一定の支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。
わかる 習得	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物

■何で学ぶか [教材]

新ゼロからスタート 中国語 (Jリサーチ)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになるという姿勢で取り組むことが大切です。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期	4月	7	発音 単母音、二重母音、三重母音、鼻母音
	5月	6	語順のルール 主語、述語、目的語、数字、連体修飾語、連用修飾語、補語
	6月	6	基本文 是の文型、省略文、疑問詞疑問文、有の文型、助詞、副詞
	7月	5	平叙文 在3つの使い分け、結果補語、自己紹介
	8月	6	疑問文① 場所の尋ね方、曜日、日にち
	9月	5	疑問文② 5種類、まとめ、二重目的語のフレーズ
後期	10月	8	応用文 漢詩や歌など
	11月	7	翻訳① エッセイの紹介、翻訳をチャレンジ
	12月	10	翻訳② 翻訳
	1月		基本問題演習① 「準4級レベル演習」
	2月	10	基本問題演習② 「中国百科定」チャレンジ
	3月		1年間のまとめ

科目 韓国語

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する  
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	基礎的な言語知識と背景知識を身に付け、日常生活に必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。
できる 活用Ⅰ	基礎的な言語知識と背景知識を身に付け、一定の支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。
わかる 習得	基礎的な言語知識と背景知識を身に付け、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物

■何で学ぶか [教材]

新好きやねんハングルⅠ (好きやねんハングル編集チーム)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになるろうという姿勢で取り組むことが大切です。



■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期	4月	5	ハングル文字を覚える 子音や母音の発音
	5月	6	名詞を覚える 発音の規則
	6月	6	名詞を覚える パッチムと連音化
	7月	5	短い文を書く ～は～です、助詞
	8月	5	復習 ハングルの読み方、簡単な文
	9月	8	動詞が含まれる文 語尾の活用、助詞
	10月	8	長い文を書く ～に～があります
	11月	8	映画や歌 韓国文化の紹介
	12月	4	動詞の活用 語尾の活用
後期	1月	6	動詞の過去形 語尾の活用
	2月	4	スピーチ練習 1分間のスピーチ原稿の作成と発表
	3月	5	1年間のまとめ

科目 フランス語

授業時数 2 単位

履修学年 2 学年

目標 日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する  
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、日常生活に必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、それらに基づいた適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。さらに、自ら積極的に学んだことを活用しようとする態度が身につけている。
できる 活用Ⅰ	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、一定の支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、一定の支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現ができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が身につけている。
わかる 習得	基礎的な言語知識と背景知識を身に着け、多くの支援を活用すれば、日常生活に最低限必要な自己表現ができる技能を身につけている。	日常生活に必要な自己表現を行う際に、母語である日本語や英語との構造的な違いや、文化的な違いに気づき、多くの支援を活用すれば、それらをできる限り考慮した適切な表現をすることができる。	授業を通して、自分自身を客観視し、出来ないことをできるように努力したうえで、日常会話に使われる表現を利用して、相手と意思疎通をする態度が見受けられる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物	定期テスト、小テスト、インタビューテスト、提出物

■何で学ぶか [教材]

ケスクセ? (白水社)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

○授業では、積極的に学ぼう、話せるようになるという姿勢で取り組むことが大切です。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期	4月	8	フランス語の文字と発音 フランス語のアルファベットやその発音
	5月	8	基本的な動詞① 第一規則動詞と、それらを用いた表現
	6月	6	名詞と冠詞 名詞の性と数。不定冠詞、定冠詞
	7月		基本的な動詞② 動詞êtreと、それを用いた表現
	8月	5	形容詞 形容詞の性と数
	9月	8	基本的な動詞③ 動詞avoirと、それを用いた表現
後期	10月	5	所有形容詞 家族や友人、持ち物や服装に関する表現
	11月	5	基本的な動詞④ 動詞faireと、それを用いた表現
	12月	5	疑問詞 疑問詞を用いた表現
	1月	5	基本的な動詞⑤ 動詞aller, venirとそれらを用いた表現
	2月		まとめ
	3月	15	まとめとして今まで学習したことの復習

科目 **世界の中の日本**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **2 学年**

目標 世界と日本の文化に関する調査や体験、考察を通じて、文化の相互作用や多様な価値観を理解する。日本と世界との関係を歴史的に考察することで日本文化を相対化し、多様な文化と共生する力を涵養する。過去と現在との文化比較を通じ自らを客観的に見つめる力を身に付け、アイデンティティを確立する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを精選したうえで、総合して分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、要点を押さえてわかりやすく発表することができる。	複数の事項を適切に関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに筋道立てて自分の考えを作り、それを表現することができる。	様々な文化に関心をもって調べるとともに、自ら課題を見出し、それについて考察・表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見をもとに自らの意見を止揚しようとしたり、他者の意見を尊重しながら協力して発表を作っていくことができる。
できる 活用Ⅰ	出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを総合して分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、要点を押さえて発表することができる。	複数の事項を適切に関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに自分の考えを作り、それを表現することができる。	様々な文化に関心をもって調べるとともに、自ら課題を見出し、それについて考察・表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見を尊重しながら協力して発表を作っていくことができる。
わかる 習得	出典の信頼性を判断して適切な情報を収集し、それらを分析することができる。また、調査・考察の結果を論理的に整理し、発表することができる。	複数の事項を関連付けて考えたり、一つの事項を多面的に考えたりできる。また、調査・考察をもとに自分の考えを作り、それを表現することができる。	様々な文化に関心をもって調べ、表現しようとする姿勢がある。また、他者の意見を尊重しようとする姿勢がある。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人]	[探究する人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人]
評価方法	発表、レポート	発表、話し合いの記録、レポート	発表、話し合いの記録、各単元の振り返りシート

■何で学ぶか [教材]

- ・世界と日本の文化や歴史に関する書籍など
- ・外国にルーツのある人々との交流やインタビューなどの体験

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・世界と日本の文化について、その特徴や歴史的背景を調べる
- ・世界と日本の文化について、その相違点・共通点を考える
- ・調査・考察したことをパワーポイントでまとめ、それに基づいて発表する
- ・話し合いに向けたメモを作成して自らの意見を整理する
- ・話し合いを通して考えたことをまとめ、表現する

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月	30	<p>1. 身近な文化について考えよう ◎「日本の学校あるある」を題材にTIKTOK風の小さな劇をつくり、お互いに発表し合う(ペア)</p> <p>2. 「日本の学校あるある」について深く調べよう ◎「日本の学校あるある」が、日本全体に当てはまるか、外国ではどうか等を調査・考察・発表する(ペア)</p>
	7月 8月 9月	30	<p>3. 「日本の学校あるある」の発表をアップデートしよう ◎単元2の内容や発表をさらに深化させる(ペア) 文献の探し方・選び方も学び、幅広い情報源にあたって調査する</p> <p>4. 文化の強要について考える ◎韓国併合特に皇民化政策について調べ、それが人々の生活にどのような影響を与えたかを考察し、レポートにまとめる(個人) 同化政策が人々のアイデンティティや生活にいかに関与したかについて考える</p>
後期 中間	10月 11月	25	<p>5. 文化の尊重について考える① ◎「日本の文化の良いところ5選」をプレゼンする(ペア) 調査(インタビュー含む)・考察・発表をおこなう</p> <p>5. 文化の尊重について考える② ◎「外国の文化の良いところ3選」をプレゼンする(個人) 調査(インタビュー含む)・体験・考察・発表をおこなう</p>
	12月 1月 2月	20	<p>5. 文化の尊重について考える③ ◎文化を尊重するとはどういうことかを考える(全員での話し合い)</p> <p>6. 価値観の違いを認め合うには ◎価値観の違いを認め合うにはどうしたらよいか、事例をもとに考える(全員での話し合い、個人でのプレゼン)</p>

科 目	アカデミックスキル（2年次）	授業時数	2 単位
		履修学年	2 学年
目 標	・自身の内面を深め、自分が学びたいことと海外進学がどのようにつながっているのかを理解する。 ・海外大学での学びや、出願方法等についての知識を身につける。 ・出願時や入学後の学業に必要なとなる英語力や論文作成スキル等を身につける。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけ、自らの学びや進路と結び付けて考えられる。また、出願時や大学での学業に必要なとなる英語力や論文作成等の技能を身につけており活用することができる。	調べて得た内容を多面的に分析・考察し、他者と協力し合い、わかりやすく発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語で論理的に表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合ったり、様々な問題の解決策を考えることで、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
できる 活用Ⅰ	海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要なとなる英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけており、ある程度活用することができる。	調べて得た内容を分析・考察し、他者と協力し合い、聞き手を意識して発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語である程度論理的に表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合うことで、自分の学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
わかる 習得	海外大学での学びや出願方法等について基本的な知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要なとなる英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけている。	調べて得た内容を整理し、他者と協力し合い発表できる。また、論題についての自分の考えを英語・日本語で表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	課題論文 エッセイライティング プレゼンテーション発表	課題論文 エッセイライティング プレゼンテーション発表	自分史作成への取り組み プレゼンテーション発表

■何で学ぶか [教材]

英字新聞、ニュース番組、TED、英論文、海外大学模擬授業動画など
----------------------------------

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・他者との対話やワークショップなど、自分の内面を深める活動を通して、自分の学びたい分野を絞る。 ・現役海外留学生との交流や、各大学HP、留学情報誌を通して、海外進学についての知識を得る。 ・エッセイの読解やライティング、ディスカッションを通して、進学後に必要となるエッセイライティングの力やスピーキングスキルを養う。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月		<u>TT</u> ノートテイキング アウトライン(テキストや英語講義をまとめる) オンラインレクチャー(TEDなど) プレゼンテーション基礎
	5月	18	<u>ITE</u> 自分とはどういう人間か?(自己紹介・他者紹介プレゼン) 日本の大学で学べることはなにか?(大学模擬授業) 海外の大学で学べることはなにか?(海外大学模擬講義の動画視聴)
	6月		
前期 期末	7月		<u>TT</u> モノローグ ストーリーテリング パーソナルステイトメントプレゼンテーション
	8月	17	<u>ITE</u> 課題論文作成(夏季休暇) 自分の好きなものはなにか?(自分史作成) パーソナルステイトメントプレゼンテーション
	9月		
後期 中間	10月		<u>TT</u> エッセイライティング クリティカルシンキング 海外大学アドミッションリサーチ 外部講師による特別講義受講
	11月	16	<u>ITE</u> 海外の大学について知る(海外大学アドミッションリサーチ)
	11月		
後期 期末	12月		<u>TT</u> 海外大学アドミッションリサーチ スピーキング・ディスカッション パーソナルステイトメントプレゼンテーション
	1月	19	<u>ITE</u> 海外の大学について知る(海外大学アドミッションリサーチ) 自分の学びたいことはなにか?(自己分析) パーソナルステイトメントプレゼンテーション
	2月		